

アレルギー疾患患者の動向

我が国全人口の約3人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していることを示している。
出典：リウマチ・アレルギー対策委員会報告書（平成17年）

【喘息】

過去30年間で、小児の喘息は1%から5%に、成人の喘息は1%から3%に増加し、約400万人が罹患していると考えられる。

【花粉によるアレルギー性鼻炎】

1998年のアレルギー性鼻炎有病率は、29.8%であった。（鼻アレルギー診療ガイドライン2016）

【アトピー性皮膚炎】

全国調査によると、4か月児；12.8%、1歳半児；9.8%、3歳児；13.2%、小学1年生；11.8%、小学6年生；10.6%、大学生；8.2%だった。（H12-14：厚労科研）

【食物アレルギー】

乳児が10%、3歳児が4～5%、学童期が2～3%、成人が1～2%だった。（H15年～17年調査）



【喘息】

平成20年有症率は、幼稚園児で19.9%、6～7歳13.8%、13～14歳で8.3%だった。国民全体で約800万人が罹患していると考えられる。ただし、喘息死は減少。

【花粉を含むアレルギー性鼻炎】

2008年のアレルギー性鼻炎有病率は、39.4%であった。（鼻アレルギー診療ガイドライン2016）

【アトピー性皮膚炎】

4か月から6歳では12%前後、20～30歳代で9%前後の頻度で認めることが明らかとなった（アトピー性皮膚炎治療ガイドライン2008）

【食物アレルギー】

乳幼児は16.5%（全都調査）、学童期は4.6%（全国調査）。成人は不明。（食物アレルギー診療ガイドライン2016）。

我が国全人口の約2人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していることを示しており、急速に増加している。